

大阪市長 橋下 徹殿

## 日本軍「慰安婦」に関する強制性を否定する橋下市長発言への抗議文

橋下市長、あなたがこの度の日本軍「慰安婦」に関する一連の発言の中で、日本軍の強制性に関して否定を繰り返していることに私どもは大きな憤りを覚えます。そしてそれが全く無知で傲慢な歴史認識に基づくものであることを指摘し、発言の撤回と「慰安婦」とされた女性たちへの謝罪を求めます。

1910年の韓国「強制」併合以降、日本政府が兵力、物資、労働力、資源の確保のために、植民地化した朝鮮の人々を利用しようと強硬な政策を行ったことは歴史的事実です。私どもは日本全国に点在する強制連行・強制労働の歴史的現場を訪ね歩き、そこに残る歴史の傷跡と、人々の証言に数多く接してきました。しかしそれらの歴史は蓋をされ、教育現場では歪められて伝えられています。歴史を美化し、自国の過ちを認めない教育を施す国は、同じ歴史を繰り返すでしょう。かつて来た道を辿らないためにも過去に目を閉ざしてはならないのです。

あなたは発言の弁明の中で、かつての戦争が「侵略」であったと認めつつも、「慰安婦」に対する強制性に関して、頑なに否定しています。しかし事実日本軍は、朝鮮を中心とする女性たちを行先も告げずに戦場に連れて行き、兵士たちの性の相手を強いたのです。被害女性たちは故国に帰ってもその恥辱を抱えたまま社会の片隅で身を潜めて生きるしかありませんでした。あなたは歴史的事実性に疑問を呈していますが、それだけの恥辱を負わされた女性たちが自らの被害を公になすことの困難さを想像してください。あなたの発言は、その困難の中で立ち上がり、名乗り出て証言し続けている被害女性たちの尊厳、命そのものを踏みにじり、更に傷を負わせているのです。

私どもが被害女性たちに面する度に訴えられるのは、日本政府による公的な謝罪です。彼女たちは日本の政治家が度々繰り返す暴言に傷つき失望し続けてきました。これ以上、彼女たちを苦しめないでください。あなたも地方行政の長として、これ以上自己弁護を繰り返さず、自らの過ちを潔く認め、彼女たちに真実な心で謝罪してください。

2013. 5. 27

日本バプテスト連盟 日韓・在日連帯特別委員会

日本バプテスト連盟 諸教会・伝道所 御中

## 送 付 状

先日、性差別問題委員会作成の抗議文（日本軍「慰安婦」に関する橋下市長発言への抗議文）が諸教会に送付されましたが、私ども日韓・在日連帯特別委員会もその趣旨に賛同、その抗議行動を支持し名を連ねました。

橋下市長の一連の発言には様々な問題点があり、先の抗議文にはそれらが適切に指摘され、皆様におかれてもその問題性を認識されたことと思います。私ども委員会でも、その後の会議の中で再度この問題を討議し、あらためて当委員会の運動の視点からその問題性を明らかにし、抗議することにいたしました。

その問題認識の観点は、橋下市長が「慰安婦」に対する日本軍の強制性を頑なに否定していることです。これは、日本の植民地支配の歴史における強制連行や強制労働の事実を学び、その罪責を見つめてきた当委員会としては決して看過できない重大な発言として、その点における問題性の指摘と発言の撤回、そして被害女性への謝罪を求める抗議文を作成しました。

諸教会・伝道所におかれましては、どうぞ掲示くださいますて、この問題について認識を共にし、祈りを合わせていただきたくお願いいたします。発言の当事者である橋下市長が、抗議の意を理解し、真摯なる対応をされることを心より期待しつつ。

2013. 5. 27

日本バプテスト連盟 日韓・在日連帯特別委員会